

オンライン

# 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

日本伝統音楽の講座に  
参加するのは初めてと  
いう方にも、気軽に受講  
いただけるセミナーです。

**LIVE配信**

申込不要 | 視聴無料

▶ 日本伝統音楽研究センターFacebookからご覧ください!

<https://www.facebook.com/kcua.rijtm>

第1回

12月3日(木) 14:40~16:10

声真似、節真似を聴く

講師

藺田 郁

日本伝統音楽研究センター  
非常勤講師

第2回

12月9日(水) 17:00~18:30

京都六斎念仏の今

～桂六斎念仏を中心に～

講師

志川 真子

大学院音楽研究科  
日本音楽研究専攻

第3回

12月17日(木) 14:40~16:10

音としての言葉

～日本の近代文学と音楽～

講師

齋藤 桂

日本伝統音楽研究センター  
講師

第4回

令和3年1月7日(木) 14:40~16:10

雅楽譜と楽家

講師

出口 実紀

日本伝統音楽研究センター  
非常勤講師

第5回

令和3年2月4日(木) 14:40~16:10

琴歌《高山》の打譜

講師

張 曦媛

大学院音楽研究科  
日本音楽研究専攻

第6回

令和3年2月18日(木) 14:40~16:10

治療と日常のあいだに響く音

～「慰楽」を聴く～

講師

光平 有希

日本伝統音楽研究センター  
非常勤講師

第7回

令和3年3月11日(木) 14:40~16:10

雅楽《越殿楽》のなぞ

講師

田湊 智志

日本伝統音楽研究センター  
准教授

第8回

令和3年3月18日(木) 14:40~16:10

秦王破陣楽の創成と展開

講師

渡辺 信一郎

日本伝統音楽研究センター  
所長

# オンライン 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

## LIVE配信

<https://www.facebook.com/kcua.rijtm>

申込不要 | 視聴無料

## 1 声真似、節真似を聴く

こえ まね ふし まね

12月3日(木) 14:40~16:10

講師：藺田 郁 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

声の質、いわゆる声色は日本の伝統音楽のなかで非常に重要な要素です。声色はジャンルや流派、さらには演者個人を特徴づける要因となってきました。それゆえ、そうした誰か/何かの声を真似て演じること自体もまた一つの芸として成り立っています。今回はそうした芸を集めた声真似、節真似のレコードを取り上げて、元になった声とも聞き比べながら芸能における「声」の魅力に迫ります。

## 2 京都六斎念仏の今 ~桂六斎念仏を中心に~

きょうと ろくさいねんぶつ

12月9日(水) 17:00~18:30

講師：志川 真子 (大学院音楽研究科日本音楽研究専攻)

毎年お盆の時期に盛んに行われる京都の六斎念仏は、太鼓の早打ちやアクロバティックな獅子舞など、「魅せる」要素の強い演目が多いのが特徴です。現在京都市内で活動している13の保存会のうち、昨年14年ぶりに活動を再開した桂六斎念仏保存会を中心に、今年取材した9つの保存会の伝承の様子を紹介します。

## 3 音としての言葉

~日本の近代文学と音楽~

12月17日(木) 14:40~16:10

講師：齋藤 桂 (日本伝統音楽研究センター講師)

明治以降、音楽と同じように、文学もまた、新しい形式やジャンルを開拓していきます。その中で、文学の重要な要素の一つである言葉のもつ「音」をどうとらえるかという問題は、音楽と文学の境界面にかかわるテーマとして、頻りに議論されるようになります。本セミナーでは、同時代の録音・楽曲を聴きながら、近代日本の音声としての言葉がどのように考えられたのかを探ります。

## 4 雅楽譜と楽家

がっけ

令和3年1月7日(木) 14:40~16:10

講師：出口 実紀 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

昨年のセミナーでは近世の雅楽譜をとりあげて、唱歌や記譜の系統を御紹介しました。今回は、それら雅楽譜の特徴と楽家についてお話いたします。各楽家の楽譜からはどのような特徴がみられるのか、記譜と楽家の関係性について探っていきます。

楽家…代々、雅楽の演奏・伝承を担ってきた家。多(おおの)家、東儀家、岡家など。

## 5 琴歌《高山》の打譜

きんか こうざん

令和3年2月4日(木) 14:40~16:10

講師：張 曦媛 (大学院音楽研究科日本音楽研究専攻)

琴歌は古琴音楽の一つとして、長い歴史を持ち、中国では、今でも吟唱されているジャンルです。日本に残されている『東皐琴譜(とうこうきんぷ)』という楽譜の掲載曲のひとつ《高山》に焦点をあてて、明清時代の琴歌を復元し、演奏してみたいと思います。古琴という楽器、また「打譜」という独自の慣習についても、紹介します。

## 6 治療と日常のあいだに響く音

~「慰楽」を聴く~

令和3年2月18日(木) 14:40~16:10

講師：光平 有希 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)

治療に音・音楽を用いる、いわゆる「音楽療法」の実践が日本で花開いた近代。その音・音楽は「慰楽(いがく)」と名付けられ、さまざまな形で医療現場に導入されていきました。今より格段に医療技術が未発達であった時代、医学や病と対峙する医療従事者は「慰楽」に何を求め、どんな音・音楽が闘病生活を送る患者に寄り添ったのでしょうか。当時の病院で実際に用いられた音源を交えつつ、「慰楽」の実態に迫ります。

## 7 雅楽《越殿楽》のなぞ

えてんらく

令和3年3月11日(木) 14:40~16:10

講師：田鍬 智志 (日本伝統音楽研究センター准教授)

越殿楽といえば、雅楽の中で最も知られている一曲でさまざまな場面で耳にする機会の多い曲ですが、実に奇妙な曲です。この曲は、古典雅楽曲のなかでは最も「小規模な曲」というだけでなく、「平調、盤渉調、黄鐘調」の3つもの調で演奏され、かつ、「最後まで演奏したあと最初にかえって曲の途中で終わる」という特殊な形式となっています。なぜこのような他の曲にはない特徴がこの曲にだけみられるのでしょうか。その歴史を紐解いてみましょう。

## 8 秦王破陣楽の創成と展開

しんのうはじんらく

令和3年3月18日(木) 14:40~16:10

講師：渡辺 信一郎 (日本伝統音楽研究センター所長)

唐王朝の創業者である太宗李世民(598~649)は、ほぼ10年をかけて隋末の群雄を平定していきました。このとき、そのありさまを民衆が歌いかつ舞いはじめたのが「秦王破陣楽」です。「秦王破陣楽」は、唐一代をつうじて大小さまざまな舞楽・楽曲に展開しました。日本にも伝来し、雅楽にも三種の破陣楽の舞楽名を残しています。日本に伝来する楽譜には「秦王破陣楽」も残っており、五線譜にもなっています。今回のセミナーでは、「秦王破陣楽」の歴史をたどるとともに、復元された音源を聴き比べて、秦王李世民的雄姿を想像してみたいと思います。